

1 いじめ防止基本方針

(1) いじめに対する基本理念

いじめは、いじめを受けた児童の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。したがって本校では、いじめが全ての児童等に関係する問題であることに鑑みるとともに、児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるように以下の5つの対策を講じていく。

- ア いじめは人権侵害・犯罪行為であり、「いじめを絶対に許さない」学校をつくる。
- イ いじめられている子どもの立場に立ち、絶対に守り通す。
- ウ いじめる子どもに対しては、毅然とした対応と粘り強い指導を行う。
- エ いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許せないことであり、自分の問題として捉えることができるよう指導する。
- オ 保護者との信頼関係作り、地域や関係機関との連携協力を努める。

(2) いじめの定義

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

(3) いじめ解消の定義

- いじめの解消は、以下の2つが同時に認められた場合、解消したと認識する。
- ア いじめの行為が3ヵ月以上止んでいる。
 - イ 被害児童が心身の苦痛を受けていないことを面談等で確認している。

(4) 学校及び職員の責務

いじめが行われず、全ての児童が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるよう、保護者及び関係者と連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合には、適切かつ迅速にこれに対処し、さらにその再発防止に努める。

2 いじめ防止の施策

(1) いじめの未然防止

すべての児童に「いじめは決して許されない」ことの理解を促し、人権尊重の精神に基づく教育活動を展開するとともに、いじめを生まない土壌作りに取り組む。

- ア 子どもがいじめ問題を自分のこととして考え、自ら活動できる集団作りに努める。

- イ 道徳や体験活動を重視し教育活動全体を通して、豊かな情操や道徳心を養い、規範意識をもち、お互いの人格を尊重し合える態度を育てる。
- ウ 児童一人一人に自己存在感を持たせ、生徒指導の機能を生かした「わかる授業」づくりに努める。
- エ 道徳の授業では、「考え、議論する」ことを意識した授業を行うとともに、道徳映像教材等を活用した取り組みを推進する。
- オ 学校生活での悩みの解決を図るために、スクールカウンセラー等を活用する。また、保健室に来室した児童からの相談にも十分対応する。
- カ インターネットを用いて行われるいじめを防止するために、外部講師等を活用した、情報モラル教育を推進し、児童及び保護者の意識の高揚を図る。
- キ 教職員の言動でいじめを誘発・助長・黙認することがないように指導の在り方に細心の注意を払う。
- ク 常に危機感をもち、いじめ問題への取り組みを行い、教育相談週間を活用し、アンケートを毎月実施し、改善充実を図る。
- ケ 教職員の研修の充実、いじめ相談体制の整備、児童や保護者に対して、相談窓口の周知徹底を行う。
- コ 相談箱（ほのぼ一のポスト）を設置し、いじめの早期発見、早期対応に努める。
- サ 学校として特に配慮が必要な児童について対応を行う。発達障害を含む障害がある児童、LGBT等の児童への適切な対応を行う。
- シ 関係機関との定期的な情報交換を行い、日常的な連携を深める。

（2）早期発見に向けて

いじめは大人の目の付きにくいところで発生しており、ささいな兆候であってもいじめではないかと疑いを持って早い段階から積極的に関わり、実施把握に努める。

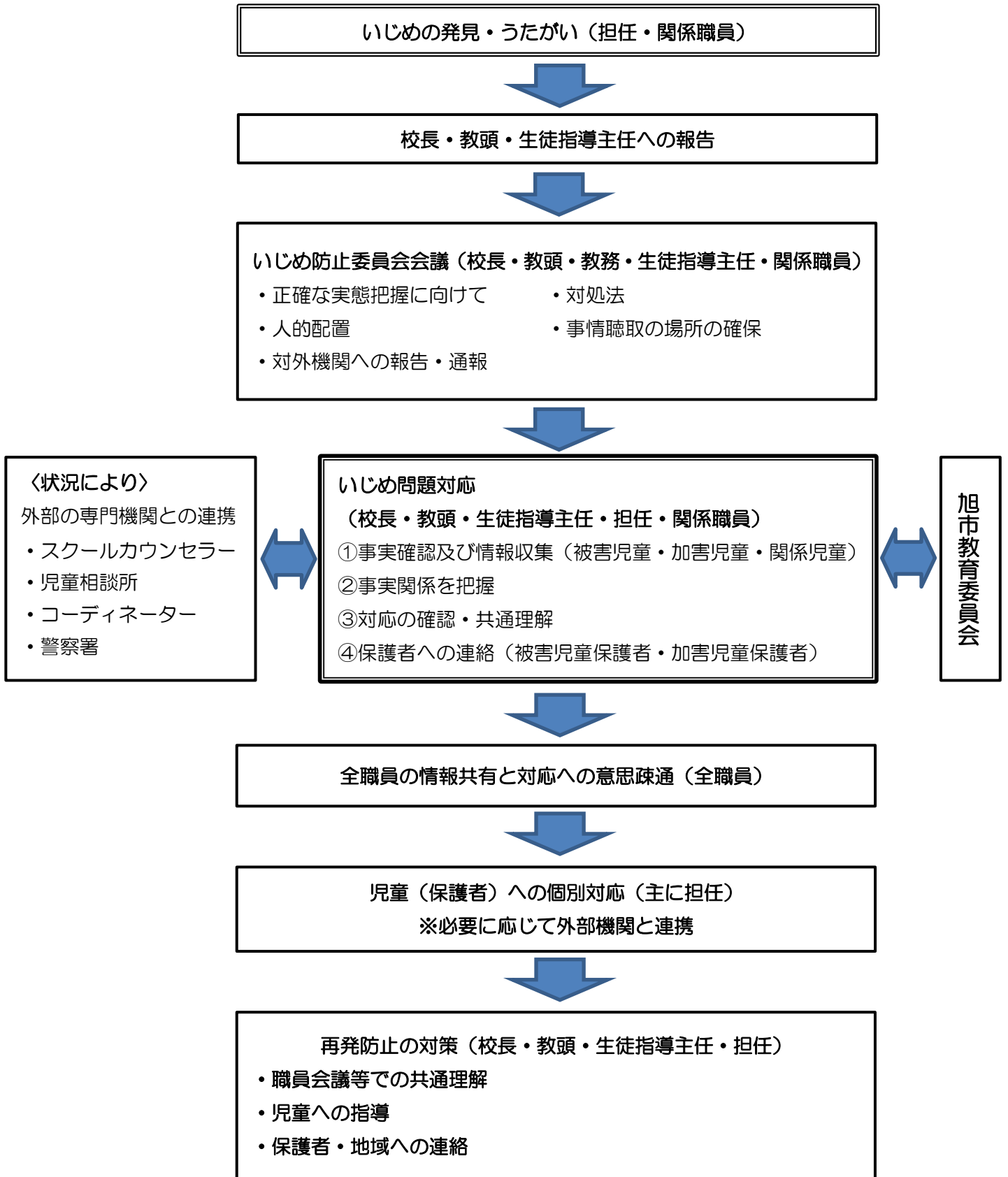
- ア 子どもの声に耳を傾ける。（毎月のアンケート調査、日記指導、個別面談等）
- イ 子どもの行動を注視する。（授業、清掃、部活動等児童に付く）
- ウ 保護者と情報を共有する。（連絡帳、電話、家庭訪問、PTAの会合等）
- エ 地域と日常的に連携する。（地域行事への参加、関係機関との情報共有等）

（3）早期対応に向けて

いじめの問題が生じた時には、詳細な事実確認に基づき、早期に適切な対応を行い、関係する子どもや保護者が納得する解消を目指す。

- ア いじめを認知した場合、すみやかにいじめ防止委員会を開き方針を話し合う。
- イ いじめられている子どもや保護者の立場に立ち、詳細な事実確認を行う。
- ウ 学級担任が抱え込むことのないように、学校全体で組織的に対応する。
- エ 校長は事実に基づき、子どもや保護者に説明責任を果たす。
- オ いじめる子どもは、行為の善悪をしっかりと理解させ、反省・謝罪をさせる。
- カ 法を犯す行為に対しては、早期に警察等に相談して協力を求める。
- キ いじめが解消した後も、保護者と継続的な連携を行う。

(4) いじめ対応の基本的流れ



(5) いじめを防止するための校内組織

ア いじめ防止委員会

生徒指導主任，生徒指導担当（低・中・高・特・専より各1名），養護教諭
校長，教頭，教務，区長会長，青少年相談員

イ いじめ相談窓口

教頭，養護教諭

3 いじめ防止計画

月	内 容	アンケート
4月	生徒指導委員会①（生徒指導の指針・年間計画・月別目標 いじめ防止基本方針・共和小の約束）	いじめ防止アンケート
5月	生徒指導委員会②（命を大切にするキャンペーン・重点項 目決定）	いじめ防止アンケート
6月	“命を大切にするキャンペーン①”「児童集会（命を大切に）」 ・教育相談週間	<教育相談アンケート> 〔学校生活アンケート〕
7月	・学校評価（1） ・情報モラル教育講演（高学年）	〔学校生活アンケート〕
9月	“命を大切にするキャンペーン②”（校長講話）	〔学校生活アンケート〕
10月	生徒指導委員会③（重点項目・個別面談での共通理解）	いじめ防止アンケート
11月	・教育相談週間	<教育相談アンケート>
12月	・学校評価（2）	いじめ防止アンケート
1月		〔学校生活アンケート〕
2月	生徒指導委員会④（重点項目・共和小の約束見直し）	いじめ防止アンケート
3月	・いじめ防止基本方針の見直し	いじめ防止アンケート

※ 月末に問題行動について各学級から報告してもらう

※ 「子どもを語る会」（職員会議後に実施）

・学級や子どもの実態を共通理解し，全職員で指導にあたる。

4 重大事態への対処

(1) 重大事態の定義

①いじめにより児童等の生命、心身又は財産に重大な被害生じた疑いがあると認められる
場合

②いじめにより児童が相当の期間学校を欠席する（年間30日を目安とし、一定期間連
続して欠席している場合も含む）ことを余儀なくされている疑いがあると認められる
場合

(2) 重大事態の調査・報告

- ①いじめられた児童や情報提供をしてくれた児童を守ることを最優先した聴き取り等による実態調査を実施する。
- ②いじめられた児童からの聴き取りが不可能な場合は、当該児童や保護者の要望や意見を十分に聴取する。
- ③いじめられた児童及びその保護者に対し、事実関係など必要な情報を適切に提供する。
- ④アンケート調査する場合は、調査に先立ち、調査対象の児童や保護者に、いじめられた児童及び保護者に情報提供することがある旨を説明する。
- ⑤調査結果は、旭市教育委員会を通して市長に報告する。

5 児童の自殺予防について

児童の自殺予防においても組織的に対応し、児童の見守りを強化する。また、「教師が知っておきたい自殺予防」等を資料として、児童の自殺予防のための研修を行う。

6 その他

(1) 年度末に、学校いじめ防止基本方針の見直しを行い、必要に応じて修正する。

(2) 外部相談窓口

・ 24時間（じかん）子供（こども）SOSダイヤル

☎ 0120-0-78310

・ 法務局（ほうむきょく）・地方法務局（ちほうほうむきょく）

<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken112.html>

・ 子（こ）どもの人権（じんけん）110番（ばん）

☎ 0120-007-110

・ 都道府県警察（とどうふけんけいさつ）の少年相談窓口（しょうねんそうだんまどぐち）

<https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/syonen/soudan.html>

・ 児童相談所全国共通ダイヤル

☎ 189

平成26年2月28日 策定

平成28年3月31日 改定

平成31年4月 1日 改定

令和 2年4月 1日 改訂